

マクロ名	説明	呼び出し例	引数
TIMESTAMP	呼び出し時のシステム時間を「年/月/日 曜 時:分:秒」の形式で出力します。	TIMESTAMP;	なし
LOG(...)	文字列を出力します。 printfのように使用できます。 <b>改行は自動では行われません。</b>	LOG("%d::ログを出力します。¥n",10);	フォーマット文字列
WARNING(...)	呼び出したファイルと行数を出力します。 警告文が必要な場合はNULLを入力してください。	WARNING("%d::これは危険です。¥n",10); WARNING(NULL);//警告場所のみの出力	フォーマット文字列
TRACE_LOG(err)	エラーコード(err)の内容を出力します。	TRACE_LOG(GetLastError());//最後のエラーを出力します。	エラーコード
POWER_INFO	充電状態を出力します。	POWER_INFO;	なし
DISPLAY_INFO	ディスプレイの情報を出力します。	DISPLAY_INFO;	なし
MEMORY_INFO	メモリ状態を出力します。	MEMORY_INFO;	なし
SET_NAME(name)	ログファイルの名前を設定します。 初期設定は「log.txt」です。	SET_NAME("log2.txt"); //この呼び出し以降、「log2.txt」へログが出力されます。	ファイルの名前
TIMESTAMP_F	呼び出し時のシステム時間を「年/月/日 曜 時:分:秒」の形式でファイルに出力します。	TIMESTAMP_F;	なし
LOG_F(...)	文字列をファイルに出力します。 printfのように使用できます。 <b>改行は自動では行われません。</b>	LOG_F("%d::ログを出力します。",10);	フォーマット文字列
WARNING_F(...)	呼び出したファイルと行数をファイルに出力します。 警告文が必要な場合はNULLを入力してください。	WARNING_F("%d::これは危険です。¥n",10); WARNING_F(NULL);//警告場所のみの出力	フォーマット文字列
TRACE_LOG_F(err)	エラーコード(err)の内容をファイルに出力します。	TRACE_LOG_F(GetLastError());//最後のエラーを出力します。	エラーコード
POWER_INFO_F	充電状態をファイルに出力します。	POWER_INFO_F;	なし
DISPLAY_INFO_F	ディスプレイの情報をファイルに出力します。	DISPLAY_INFO_F;	なし
MEMORY_INFO_F	メモリ状態をファイルに出力します。	MEMORY_INFO_F;	なし
TIMESTAMP_C	呼び出し時のシステム時間を「年/月/日 曜 時:分:秒」の形式でコンソールに出力します。	TIMESTAMP_C;	なし
LOG_C(...)	文字列をコンソールに出力します。 printfのように使用できます。 <b>改行は自動では行われません。</b>	LOG_C("%d::ログを出力します。¥n",10);	フォーマット文字列
WARNING_C(...)	呼び出したファイルと行数をコンソールに出力します。 警告文が必要な場合はNULLを入力してください。	WARNING_C("%d::これは危険です。¥n",10); WARNING_C(NULL);//警告場所のみの出力	フォーマット文字列
TRACE_LOG_C(err)	エラーコード(err)の内容をコンソールに出力します。	TRACE_LOG_C(GetLastError());//最後のエラーを出力します。	エラーコード
POWER_INFO_C	充電状態をコンソールに出力します。	POWER_INFO_C;	なし

DISPLAY_INFO_C	ディスプレイの情報をコンソールに出力します。	DISPLAY_INFO_C;	なし
MEMORY_INFO_C	メモリ状態をコンソールに出力します。	MEMORY_INFO_C;	なし
TIMESTAMP_D	デバックモードでのみ有効です。 呼び出し時のシステム時間を「年/月/日 曜 時:分:秒」の形式で出力します。	TIMESTAMP_D;	なし
LOG_D(...)	デバックモードでのみ有効です。 文字列を出力します。 printfのように使用できます。 <b>改行は自動では行われません。</b>	LOG_D("%d::ログを出力します。¥n",10);	フォーマット文字列
WARNING_D(...)	デバックモードでのみ有効です。 呼び出したファイルと行数を出力します。 警告文が必要な場合はNULLを入力してください。	WARNING_D("%d::これは危険です。¥n",10); WARNING_D(NULL);//警告場所のみの出力	フォーマット文字列
TRACE_LOG_D(err)	デバックモードでのみ有効です。 エラーコード(err)の内容を出力します。	TRACE_LOG_D(GetLastError());//最後のエラーを出力します。	エラーコード
TIMESTAMP_DC	デバックモードでのみ有効です。 呼び出し時のシステム時間を「年/月/日 曜 時:分:秒」の形式でコンソールに出力します。	TIMESTAMP_DC;	なし
LOG_DC(...)	デバックモードでのみ有効です。 文字列をコンソールに出力します。 printfのように使用できます。 <b>改行は自動では行われません。</b>	LOG_DC("%d::ログを出力します。¥n",10);	フォーマット文字列
WARNING_DC(...)	デバックモードでのみ有効です。 呼び出したファイルと行数をコンソールに出力します。 警告文が必要な場合はNULLを入力してください。	WARNING_DC("%d::これは危険です。¥n",10); WARNING_DC(NULL);//警告場所のみの出力	フォーマット文字列
TRACE_LOG_DC(err)	デバックモードでのみ有効です。 エラーコード(err)の内容をコンソールに出力します。	TRACE_LOG_DC(GetLastError());//最後のエラーを出力します。	エラーコード